

17 三角縁神獣鏡の銘文解読に挑戦！

権現山 51 号墳は、兵庫県たつの市の御津町と揖保川町の境にまたがる標高約 140mの尾根上に位置します。



空から見た権現山51号墳

平成元年（1989）2月～3月、私（山本）が当時在学中の岡山大学考古学研究室が発掘調査を行いました。調査の結果、全長約43mの前方後方墳の竪穴式石室（後方部頂）から、三角縁神獣鏡が5面見つかりました。



発掘調査の状況



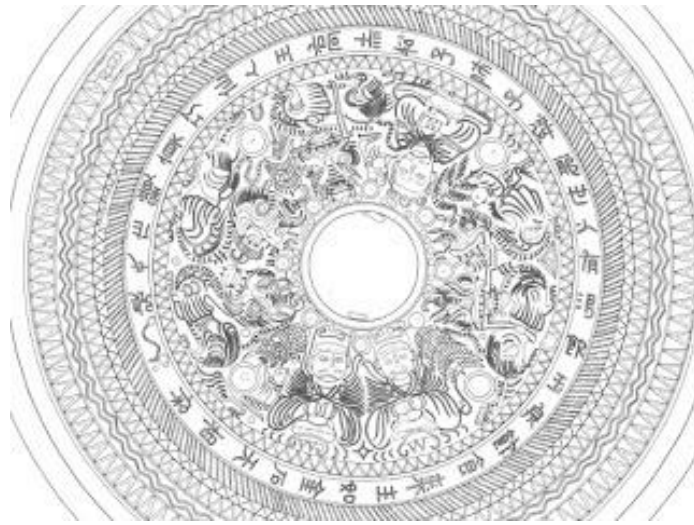
鏡の出土状況

2号鏡は直径約23cm、重さ約1.3kgの青銅製で、「張氏作三神五獣鏡」と呼んでいます。張さんが作った鏡で、3人の神様と5匹の神獣が表現されています。



2号鏡

また鏡には時計回りに漢字の銘文も表現されていますので、解読に挑戦しました。



神獣像の外側が銘文

銘文

張氏作鏡眞巧 仙人王(子)喬赤松子 師子辟邪世少有(上有仙人不知老)渴飲玉泉飢食棗 生【壽】
如金石 天相保兮

※ () は不足、または加えることで、意味が通じると考えた文字。

※ 【 】 は変更することで、意味が通じると考えた文字

読み下し

張氏(ちょうし)の作りたる鏡は真(まことに)巧(たくみ)なり。仙人は王子喬と赤松子なり。師子(獅子)は邪(じゃ)を除(のぞ)き世に有ること少なし。(上には仙人有りて、老いを知らず。)渴いては玉泉を飲み、飢えては棗(なつめ)を食らう。壽は金石の如く、天とともに相保ちや。

翻訳

張氏が作ったこの鏡は本当に素晴らしい。この鏡の仙人は(中国の伝説上の)王子喬と赤松子である。この世に現れることは少ないが、(この鏡に刻まれた)獅子は邪悪を取り除く。天上では不老不死の仙人が玉泉(清らかな泉)を飲んで棗を食べているように、この鏡を持つ者の命は金石のように永久不変で、天上の仙人のように老いを知らない。

出展：権現山 51 号墳発掘調査団団長近藤義郎編『権現山 51 号墳』1991 (平成 3) 年

(学習支援課 山本 誠)